

#吉岡進の新世代沖釣り紀行 vol.11  
**ツリガチ!**  
 TSURI GACHI

●当日の釣り場は館山沖の水深20~80メートル前後



# 内房のSLJ

撮影/文◎本誌編集部

やったじゃん!

んんんんん

んんんんん

やったじゃん!



◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。沖釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします!



▲45センチ、1.4キロのアオハタが取り込まれた

ジグは軽くてラクだし結構釣れるし工夫もできるしサイコーだよ

▲釣るのも大好きな和田五郎船長。浅場から深場まで館山沖の様ざまなポイントを案内してくれる



▲世界GPチャンプ・原田哲也さんも参戦。アヤマカサゴがダブルヒット

じりじり〜



▲開始早々にヨッシーが釣り上げたのはウツカリカサゴ(通称カンコ)▶底から5メートル上までをていねいに探って釣り上げたアオハタ



アカハタ



アオハタ

◀ボトム付近でリフト&フォールで誘い、リフトでバイトしてきたアカハタ

▼根魚が巻き上げて釣れる中、イサキだけがフォールで食ってきた



イサキ



▲釣り上げたアオハタの口の中にはカサゴの幼魚。しかもまだ生きていた

★根魚がヒットし、SLJ専用ロッドが弧を描く

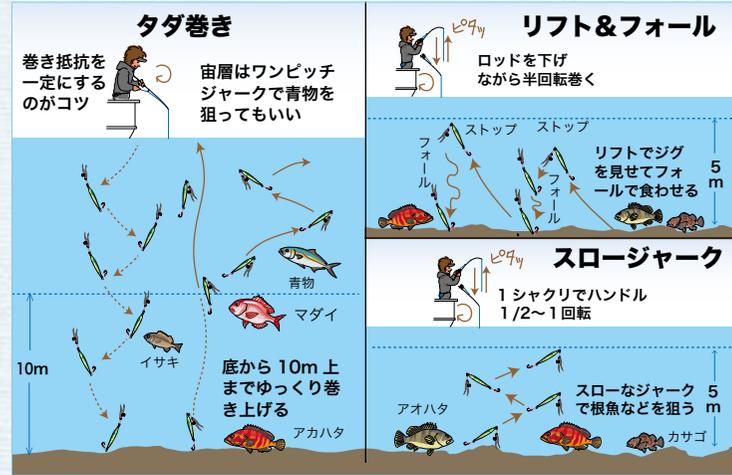
5月下旬に釣行したのは内房勝山港の勝山かき釣りセンター。和田五郎船長が目指した釣り場は南へ45分ほど走った館山沖の水深20〜80メートル前後の根周り。ここで釣れるのはカサゴ類、ハタ類などの根魚をメインにイサキ、マダイ、青物など。何が釣れるか分からないためそのとき、その場で釣れる魚をターゲットにして楽しむことにした。

## SLJの釣り方イメージ

●様々な魚を狙えるのがSLJ。手堅いのはハタ類やカサゴなどの根魚。魚にじっくりとジグを見せるイメージでスローに誘う。底から5~10メートルはゆっくり巻いたり、スロージャークやリフト&フォールで探る。反応がなければ宙層はワンピッチジャークで青物狙いに切り換えたり、マダイを狙うならタダ巻きも効果的。

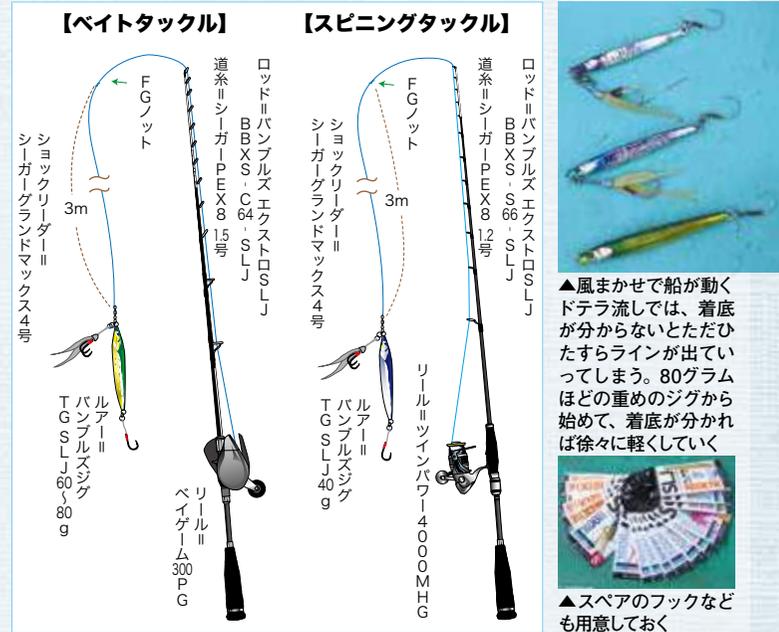


▲タダ巻きは1秒間にリール1回転。ワンピッチジャークは1シャクリでハンドル1回転



## SLJタックル

●しっかりと曲げてファイトを楽しみたいのであればSLJ専用ロッドがおすすめ。扱いやすく、ジグのコントロールも容易だ。



## #船宿インフォメーション

### 内房勝山港 勝山かかり釣りセンター

☎0470-55-2675  
(詳細は巻末の情報欄参照)

●料金=SLJ乗合一人1万1000円(氷付き)  
●備考=予約乗合。6時出船。ほかかかり釣りのクロダイも ▼和田 五郎船長(左)



▲クロダイのかかり釣りでも有名な同宿だが小型船で沖釣りへも案内してくれる



仕事じゃないもん遊びだもん。ただうれしいだけじゃねえ

★最後の流しで850グラムのマダイを釣り上げた原田さん。着底から10回ほどシャクリ、そこからはタダ巻きで誘うと食ってきた

ウツカリカサゴはガチでよく釣れる！

●巻き上げてくるとウツカリカサゴがホカンと浮上

▶小型の根魚はハリの掛かり所を確認して抜き上げる



### 内房のSLJで釣れた魚たち

●当日、船中5人で釣り上げた魚は十目以上。最も釣れたのがアカエソ



▲アカササノハベラ  
▲ワニゴチ



▲ヒメ  
▲オキナヒメジ



▲ヒレナガカサゴ  
▶アカエソ



★鹿島&板倉コンビのラストを飾ったのはアオハタのダブル

やばいよ、バリのなな、振り回すな



●青物らしきがヒットしてラインが引き出される。ここから18分間のファイトが始まり、船長、同船者が見守る

ポイントに到着すると1流し目からアタリがあり、2流し目には早くもヨツシーがウツカリカサゴをキャッチ。これを皮切りに根魚ラッシュに突入し、アカハタやアオハタが次々と釣れ上がり、船上は大盛り上がり。日が高くなってからも勢いを増し、加えてアカエソ、アカササノハベラなど赤い魚がよく釣れた。

終盤、青物らしきがヒットし、18分間の攻防を繰り広げたヨツシー。ラストは原田さんが値千金のマダイを釣り上げるなど文句なしの釣れっぷりで館山沖の豊かな海と、SLJのポテンシャルを知るには十分な釣行となった。

詳しくは64ページからの本編にて！